



機動戦士

# MOONガンダム

MOBILE SUIT MOON GUNDAM

Amazon.co.jp限定

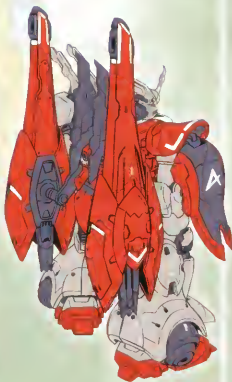
三二設定資料集

MSK-008R

# リック・ディジェ

(アムロ・レイ大尉機)

RICK DIJE



## 外郭部隊ロンド・ベルで 活躍するエース専用機

ハマーン戦争後に発足したロンド・ベル隊はティターンズと同じ敵を踏まないために地球連邦軍の外郭部隊として結成され、ティターンズ残党やネオ・ジオン残党狩り部隊として活動するもののガンダムタイプの機体には制限が課せられていた。

リック・ディジェは当時の主力MS、ジムⅢでは一年戦争やグリプス戦役の英雄アムロ・レイ大尉のポテンシャルが発揮できないと判断したロンド・ベル隊司令部が用意した機体である。カラーリングは、18TFAS時代のテスト機体的カラーがアムロ・レイのパーソナルカラーとして認識されているのを利用して施されている。

### RICK DIJEH

型式番号: MSK-008R

全高: 24.0m

全備重量: 56.7t

武装: 頭部バルカン×2、ビーム・ライフル、ハイパー・メガ・ランチャー、クレイ・バズーカ、ビーム・ナギナタ、シールド

メカニックデザイン: 形部一平

AMX-117LG (AMX-117RG)

# ガズL・グラウ (ガスR・グラウ)

GAZ-L GRAU (GAZ-R GRAU)



*IPPEIGGBU*

## GAZ-L GRAU (GAZ-R GRAU)

型式番号: AMX-117LG (AMX-117RG)

全高: 19.0m

全備重量: 80.8t

ジェネレーター出力: 2130kw

装甲材質: ガンダリウム・コンボジット

武装: ビーム・サーベル×4、ヒート・ランス、ビーム・ライフル、シールド、六連装特殊ミサイルポッド



## 初代ネオ・ジオン総帥を護る灰色のロイヤルガード!?

ハマーン戦争時代に配備されたロイヤルガード・ガルバルディは、親衛隊専用機として有名である。前大戦で本来の親衛隊パイロット2名がグレミー軍の空爆により戦死したため、パイロット不在の機体が2機発生した。その後、さまざまな経緯を経てネオ・ジオンの初代総帥の警護のためにアタラント3へ配備される。

新たなパイロットは、ガズL・グラウにクラス・バックル。ガズR・グラウにアンスガル・ゴロンが搭乗することとなった。2人とも親衛隊隊員ではない。アタラント3の航海途中での実戦を重ねることで、当初のパイロットとは違う運用方法が模索され、現地改修が行われていった。

肩のウェポンラックを兼ねた増加装甲は外され、新たに特殊ミサイルポッドが装着されている。また、アタラント3の整備班の指示でエングレーピングは削り取られており、全身銀色だったカラーリングもグレーに塗り替えられたようだ。その際に機体の愛称としてガズL・グラウが用意され、型式番号も便宜上のものに変えてある。

メカニックデザイン: 形部一平

MSZ-010A1

# シータプラス

## THETA PLUS

### ハイパー・メガ・カノン

メガ・ビーム・ランチャーの流れを汲む最大火力として79.8Mwの出力を誇る長射程のビーム兵器。従来モデルから改良されており、ビーム・スマートガン機構が一部採用されている。ディスク・レドームが増設され、連動することで命中精度を上げているようだ。

## ロンド・ベル隊に持ち込まれた 規格外の特殊多目的機

シータプラスは、シータプロジェクトの集大成として009型や010型や013型、FAモデルまでを統合して再設計されたフラグシップ的な機体である。ムーバブル・フレーム構造を活かして戦況に合わせたユニットを交換することで、ZZ-GR以上のスペックとメンテナンス性を両立させたのである。それぞれの形態によりワンマンオペレーションで中長距離支援や、強行偵察、拠点攻略作戦までこなせるだけのパフォーマンスを持つ。

地球連邦軍ラサ司令部の意向で、ロンド・ベル隊のラー・ギルスに、パイロットのサフィラ・ガードナー中尉と配備されている。

TAKAYUKI KOSAI

### THETA PLUS

型式番号: MSZ-010A1

全高: 21.5m

全備重量: 70.4 t

武装: 頭部バルカン砲×2、ハイパー・メガ・カノン、ビーム・サーベル×2、ビーム・キャノン×2、マイクロミサイルランチャー×2

メカニックデザイン: 虎哉孝征

AMS-123X

# バルギル

VARGUIL



## ネオ・ジオンが模索する 指揮官用次世代ニュータイプ専用機

宇宙世紀90年代に入り、休戦中のネオ・ジオン軍では独自にザクタイプを模した新たな主力機が極秘裏に建造されていた。中でも新型主力機をベースに次世代のサイコミュ技術を搭載したニュータイプ専用機として試作されるも、要求するスペックを満たせなかったMSもあったようだ。

バルギルは、来るべきネオ・ジオン再蜂起に向けて開発されたニュータイプ専用機のひとつであったはずだが、アタラント3に積み込まれた機体からは次世代サイコミュ技術が回収されていた。従来のサイコミュ式コクピッドとファンネルに戻り、同時にいくつかの武装も外されている。

パイロットはネオ・ジオンのニュータイプ研究所出身の強化人間アゴス・ラガート少尉が務める。

### VARGUIL

型式番号: AMS-123X

全高: 20.9m

全備重量: 57.6t

武装: ビーム・ライフル(グレネード・ランチャー付き)、ロング・ライフル、ビーム・トマホーク兼用ビーム・サーベル、ファンネル×6

メカニックデザイン: 形部一平

AMX-104L

# アルス・ジャジャ

## RS-JARJA

RS-JARJA

型式番号: AMX-104L

全高: 23.55m

全備重量: 82.8t

ジェネレーター出力: 2320kw

装甲材質: ガンダリウム合金

武装: 狙撃用大型ビーム・ライフル、

ビーム・サーベル×4、三連装ショ

ルダームミサイルポッド×2、バリ

アプル・シールド×2、グレネード

ランチャー×3



## 初代ネオ・ジオン総帥に仇なす者を狙い撃つ騎士の隊長機

ハマーン戦争時代、旧ジオン公国軍以上に国力も戦力も乏しかったネオ・ジオン軍は、優性人類学に基づいてMS操縦技術に長けた兵士を優先的に登用し、士官級の扱いで主力機とは異なる高性能の試験機や実験機紛いの機体を彼らに配備した。

アルス・ジャジャは、YMS-15ギャンの流れを汲むAMX-104R・ジャジャの系列機となり、全体のスペックを向上させた上でさらにミノフスキー粒子散布環境下での前哨狙撃戦にも対応させた機体である。R・ジャジャの性能はそのままに、新たに前哨狙撃戦対応の観測偵察のレドームポッドを左肩に装備。超長射程を誇る高火力の大型ビーム・ライフルは、レドームポッドと連動して運用される。

レドームポッドにはEWAC機能やレーザー、超音波センサー、光学センサーも付いているようだ。指揮官機としての通信機能も充実しており、オールラウンドでの運用が可能となった。

パイロットはアタラント3のMS隊の隊長を務めるオルボ・マルシェフが搭乗する。

メカニックデザイン: 形部一平



RGM-86RF

# ジムⅢパワード

GMⅢ POWERED

## GMⅢ POWERED

型式番号:RGM-86RF  
全高:18.6m  
全備重量:64.6t  
ジェネレーター出力:1560kw  
装甲材質:チタン合金+ガンダリウム合金(一部)  
武装:頭部バルカン×2、ビーム・サーベル×2、ビーム・ライフル・シールド、腰部高性能2連ミサイルランチャー

TAKAYUKI KOSAI

## ラー・ギルスが誇る 歴戦のベテランパイロットが駆る 鉄壁のカスタム機

ラー・ギルスに搭載されたジムⅢパワードは、隊長であるウ・レド・モリーナの搭乗機である。ハマーン戦争中期にカラバが実戦投入したRGM-86RジムⅢは、エゥーゴ派主導の地球連邦軍において、そのまま主力機として制式採用された。

AE社で造られたジムⅢには、RGM-79RジムⅡをベースに前線を支えたRX-178ガンダムMK-ⅡやMSA-003ネモのパーツがふんだんに流用されており、生産数はRGMシリーズが再び主力機の中心になるほどであった。

ジムⅢパワードは、ベテランパイロット向けに強化された改造機で主な改修箇所は、頭部に増設された複合センサー内蔵のバイザーと胴体部への増加装甲、両肩のショルダーパーツの変更である。

これはOG空間での対MS戦において白兵戦を主体にするための仕様である。上半身を重点的に改装がなされており、その外見からパワードの名が付けられた。!

ライフル



肩ミサイル



ビーム・ジャベリン

メカニックデザイン: 虎哉孝征

AMA-103

# メドウツサ MEDUSSA

## マルチブルメガ粒子砲

胴体中央部に備えられたマルチブルメガ粒子砲は、ジェネレーターが強化されたことで通常のメガ粒子砲だけではなく、拡散メガ粒子砲やハイパーメガ粒子砲への切り替えが可能となった。



IPPEIGABU

## シュランゲ隊が駆る 純正ジオンのエース専用機

ハマーン戦争末期、ネオ・ジオン軍は次期主力機としてドーベン・ウルフを採択した。しかし、地球連邦軍のガンダムタイプの技術混入を由としない派閥が現れ、純ジオン系技術で固められたハンマ・ハンマの流れを汲む機体が開発されることになる。それがこのメドウツサである。サイコウェーブ指数が低くても扱える準サイコミュを搭載し、エース専用機として開発された。

その特徴は4本に増えた3連ビーム砲内蔵有線アームと、胴体中央部に備えられたマルチブルメガ粒子砲にある。

パイロットは、シュランゲ隊のガット大尉、レフィ中尉、マース中尉が乗り込んでいる。

## MEDUSSA

型式番号: AMA-103

全長: 24.1m

全幅: 16.4m

スラスター推力: 288600kg (20300kg × 2, 13200kg × 12, 11200kg × 8)

装甲材質: ガンダリウム合金

武装: 3連ビーム砲内蔵有線アーム × 4、マルチブルメガ粒子砲 × 1、メガ粒子砲 × 1、1フィールド・ジェネレーター × 1

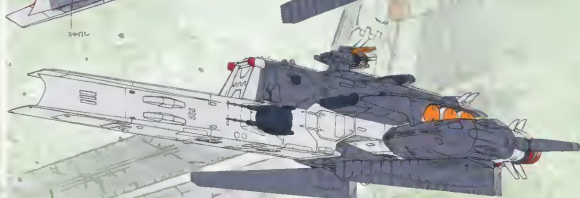
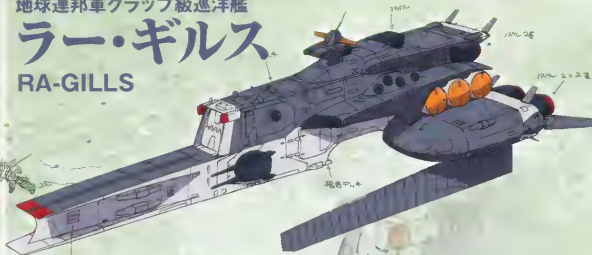
メカニックデザイン: 形部一平



地球連邦軍クラブ級巡洋艦

# ラー・ギルス

RA-GILLS

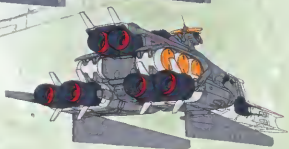


## ネオ・ジオンの首魁を追う ロンド・ベルの艦

地球連邦軍の外郭部隊であるロンド・ベルに所属するクラブ級の一隻。クラブ級は、サラムス級、アレキサンドリア級に続く地球連邦宇宙軍の宇宙巡洋艦で、カイラム級機動戦艦との連携を視野に入れた最新鋭艦でもある。構造や部材もカイラム級との互換性が高く、船体こそスケールダウンしているものの第一艦橋の内部やMS着進口はほぼ同じ大きさとなっている。

ラー・ギルスの船体塗装の特徴は、カタバルトデッキを兼ねた船体前甲板がエンジンブロックや乾舷ブロックと同じグレーになり、喫水ブロックはホワイトになっている。艦長はラウロ・バチーク、通信士は、マリ・ミラネスが務める。

ラー・ギルスには常駐のMS小隊としてウバルド・モリーナ大尉が率いるジムⅢ少隊とラサ司令郎から密命を帯びて派遣されて着任しているサフィラ・ガードナー中尉のシータプラスがある。ムーン・ムーン近傍を航行中の不審船アタラント3に停船命令を出したものの無視されたため、交戦状態に入った。



IPPEIGABU

### RA-GILLS

艦籍番号: SCC-180926

全長: 292m

全幅: 133m

推進システム: 熱核ジェット・ロケットエンジン

主武装: 2連装主砲×2、単装機銃×12、2連装機銃×2、

ミサイル発射管×6、8連装ミサイルランチャー、ほか

メカニックデザイン: 形部一平

偽装貨物船

# アタラント3

ATALANTE 3

ATALANTE 3

艦籍番号:不明

全長:200m

推進システム:熱核ロケットエンジン

主武装:2連装メガ粒子砲×3、対空ビーム砲×複数、

5連装ミサイル×2ほか



## ネオ・ジオンの本命を運ぶ偽りの船

不定期輸送貨物船を装った国籍不明船。その実態は、ネオ・ジオンの作戦を帯びた指揮官級MSを4機搭載した上で重武装を施した宇宙海賊船である。

船体はジオン共和国時代に造られており、艦首のコンテナブロックを丸ごと武装コンテナに入れ替えてある。ユニット構造になっており、MS格納庫も分離可能なコンテナになっているようだ。本来の船体は赤色だが、偽装の際、グレーに塗装された。

武装は艦首側の2連装メガ粒子砲3門、5連装ミサイル2門などが判明しているが、まだすべての偽装が解かれてはいない可能性もある。「オフクロさん」と船員に呼び親しまれているリセ・ジェナロが艦長を務め、副長にエッペ・クルーム、操舵長にルボル・アランコ、レンカ・マフレナ通信士らが乗艦している。

サイド1の遠周にある隕石群の中に潜むムーン・ムーン周辺宙域でロンド・ベル隊のラー・ギルスに見つかり、停船命令を無視したため、交戦状態となった。

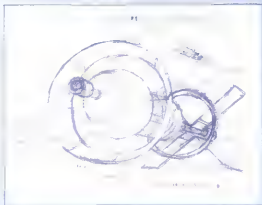
メカニックデザイン:虎哉孝征

# Consideration of "MOON GUNDAM"

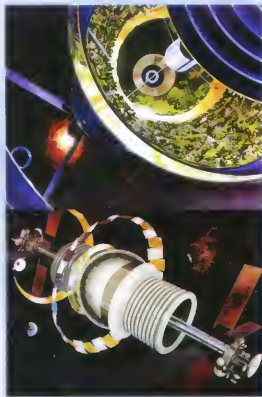
## 忘れられたコロニー「ムーン・ムーン」とは?

『機動戦士ガンダムZZ』美術設定

ムーン・ムーン外観



美術監督・池田 繁美氏によるコロニー「ムーン・ムーン」の美術設定スケッチ。\*「バナル球」を基にした「島1号」球形コロニーをベースに起こされた設定らしく、外観や居住区内の構成はほぼ踏襲されている。ジャングル化が進み高温多湿の環境により「霧(キリ)」が立ち込めており、遠方の見通しが利きにくい設定としているようだ。



宇宙世紀世界におけるスペースコロニー「ムーン・ムーン」は、月軌道土のL5(ラグランジュ第5点)の疑似周回軌道を通るサイド1周辺に滞在する隕石群の中にある旧式球形コロニー。その存在は、『機動戦士ガンダムZZ』第14話にて確認された。

元はサイド1建設の開発拠点として配置され、建設終了時に放棄されると不法残留者や密移民が居座る吹き溜りとなした。それでも当初は連邦の管理下においてコロニー公社の保守整備も受けていたが、「寒村」の扱いは否めず、「一年戦争」の惨禍の後は連邦の弱体化もあって管理も及ばずさらに孤立化する。自給自足機能が充実していたために、外界との接触や交易を断絶しても「農耕と牧畜に頼る独自の生活様式」での居住環境が維持されている。

そうした幾多の苦難を重ねた年月が、スペースコロニーという技術が「産した人」環境にありながら「科学技術を捨てて自然と共存する」という矛盾した教義を掲げつつ、それでも穏やかな生活を規範とする新興宗教「光族」が、このコロニー「ムーン・ムーン」の居住民に根付くこととなる。

### バナル球型コロニー

バナル球(Bernal sphere)という球形の居住区画を持つスペースコロニーの概念自体は古く、イギリスの物理学者ジョン・デズモンド・バナル(John Desmond Bernal)の著書「宇宙・肉体・悪魔 理性的精神の敵について」(1929年)にて提唱されたもの。直径1.6km、2万人から3万人が居住可能な気密球殻とされた。

のちに'70年代にスペースコロニーの研究で有名になる『ライフロンティア』構想のジェラルド・K・オニールがこの「バナル球」を基にした「島1号(アイランド1)」が提案され、『機動戦士ガンダムZZ』に登場した旧型のスペースコロニー「ムーン・ムーン」は、こちらを元に設定されたようだ。

最大10万人居住可能な球殻は、約30秒に1回転することで赤道部に1G相当の遠心力(回転疑似重力)を供給。居住区画に「球形」が選定された理由は、気圧保持に最適であり宇宙放射線の遮蔽効率にも優れる形状としている。

NASAエイムズリサーチセンター '70年代の宇宙コロニー  
夏季研究アートワークより  
Art by Rick Guidice / NASA Ames Research Center

早くもHGで初立体化!  
**HG 1/144**  
**ムーンガンダム**

2018年9月発売



【メーカー希望小売価格】3240円(税込)

【発売元】株式会社BANDAI SPIRITS

【対象年齢】8才以上

『機動戦士ムーンガンダム』  
絶賛連載中!

月刊ガンダムエース  
**GUNDAM 4**

毎月  
**26日**  
発売!

非売品 編集 ガンダムエース編集部 ©創造・サンライズ